



香川県 高松空港

ジャンル ー 空港

1

高松空港

## 航空輸送の高速化、大型化に対応した高松空港

旧高松空港からの移転先には、生島沖の海上が有力候補だったこともあるんだよ。



### 1. 陸軍飛行場から始まった旧高松空港

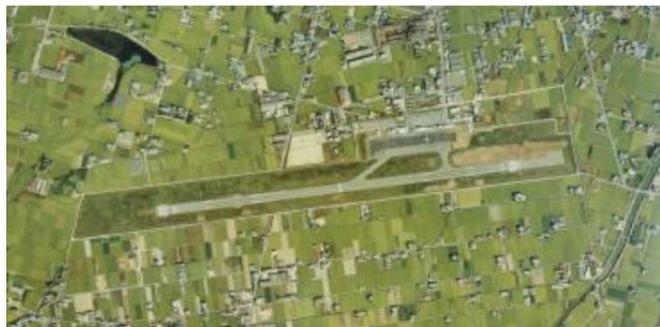
高松空港は、令和元（2019）年12月に開港30周年を迎えました。高松市街地より15kmほど南に位置し、高松市香南町と綾歌郡綾川町にまたがる標高185mの山あいにあります。令和2（2020）年現在、国内線3路線（羽田、成田、那覇）、国際線4路線（ソウル、上海、香港、台北）があり、乗降客数は年間約200万人にまで増加しています（※新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの路線が運休中）。

現在の高松空港は、高松市林町にあった旧高松空港からその役目を引き継ぎました。旧空港跡地は、サンメッセ香川や香川県立図書館、香川大学工学部のある、インテリジェントパークになっています。

旧高松空港は、昭和19（1944）年1月、香川県木田郡林村を中心に、同郡川島町、三谷町、香川郡多肥村にわたる270町歩（1町歩は約1ha）の田畑・住宅だった土地に、陸軍飛行場が建設されたのが始まりです。第二次世界大戦後の昭和21（1946）年10月には、滑走路1,200mと平行誘導路を含む47町歩を飛行場として残し、他は土地の所有者に返還されて農地となりました。また、昭和30（1955）年12月には第2次農地解放が行われ33町歩に縮小されました。

翌昭和31（1956）年4月に空港整備法が施行され、旧高松空港は第二種空港として整備されることになりました。

た。滑走路の舗装、管制塔の建設が行われ、昭和 33（1958）年 6 月に、1,200mの滑走路 1 本、5 機の飛行機が駐機できる駐機場（エプロン）、誘導路、を備えた空港として開港。同年 7 月に旅客ターミナルも完成しました。



旧高松空港。



旧高松空港跡地にある現在の施設。

## 2. 望まれる空港の整備・拡張

昭和 40 年代の日本は高度経済成長期でした。全国で航空輸送の需要が伸び続け、輸送力向上のために、増便と航空機の大型化が必須となりました。さらに定刻発着や安全性の確保のため、空港施設の拡充と整備、新空港の設置も望まれました。航空機の大型化、ジェット化が計画されると、国は昭和 46（1971）年度より、空港施設の能力を高めるために「第 2 次空港整備 5 カ年計画」（昭和 46～50 年度）をスタートしました。

この 5 カ年計画で高松空港は、中距離ジェット機を受け入れられ、運航の安全性、定時性（定刻に発着すること）をより高めた施設への変革が求められ、新たな空港の建設も含めた検討が始まりました。

## 3. 新空港は海か山か？

昭和 45（1970）年 3 月、国は新空港建設の適地調査を行い、県内 6 つの候補地から現高松空港の整備を選定しました。しかし現空港では障害物や騒音問題の解決、用地取得などが困難なのは明かで、さらに細かい調査をした後に結論を出すことになりました

一方香川県は、運輸省（現在の国土交通省）に対し現空港のジェット化を要望。昭和 44（1969）年 8 月には県議会に「高松空港整備促進特別委員会」を設け、県内の空港適地の調査を実施しました。12 ヶ所が候補に上がり、さらに絞り込んだ結果、

ア 現空港の大幅な拡充案（滑走路の方向変更）

イ 高松市西部生島沖に新空港を建設する案（生島沖案）

の 2 案が選定されました。この 2 案で検討を重ね、昭和 47（1972）年 4 月、高松空港整備促進特別委員会では、「生島沖を新空港の候補地とすること」「大型機に対応するため滑走路延長を 2,500m とすること」を決定。昭和 51（1976）年 10 月、国の「第 3 次空港整備 5 カ年計画（昭和 51～55 年度）」で新規着工が認められました。



空港建設の一方で、香南地区ではため池の補償工事も行われました。満濃池をはじめとする大小2万余のため池がある香川県では、高松空港建設地内にも30個の農業用ため池があり、それらが埋立てられることになりました。そのため、新設3カ所、高上げ7カ所の計10カ所の補償工事を実施。空港建設のためにこれほど多くの農業用ため池の機能補償が行われたのは全国でも珍しいことでした。古くからの複雑な水利慣行や下流水利権者との利害が絡み、用地取得に難航しましたが、夜間工事なども行って、当初計画より短期間で完成。昭和62年（1987）には、全工事が完了しました。

## 5. 運営を民営化

平成12年（2000）4月には東京線の乗降客数が1000万人を突破。地方空港では上位のスピード記録となりました。また国内外から観光県として注目を浴びると、空の玄関として高松空港の果たす役割もますます大きくなっていきました。

平成30（2018）年4月には空港施設を民営化。「三菱地所・大成建設・パシフィックコンサルタンツ・シンボルタワー開発」の企業グループが設置した特定目的会社（SPC）「高松空港（株）」が、令和14（2032）年までの15年間、空港運営事業を担い、滑走路、ターミナルビル、貨物ビル、駐車場などを一括運営しています。

陸軍空港から始まった旧空港から、幻の瀬戸内海の空港案を経て、香南の山の空港へ。時代が変わっても、高松空港は、香川県の空の玄関として欠かせない存在です。



現在の高松空港（平成28年撮影）。